

松本市基幹博物館新築主体工事に係る総合評価落札方式
技術等提案審査講評

松本市基幹博物館建築工事
技術評価委員会委員長 仙田 満

本件は、松本市立博物館の老朽化・狭隘化の解消を図り、松本まると博物館構想の「中核施設」（基幹博物館）として、現在地から移転新築をするものである。本事業は、松本市総合計画（第10次基本計画）において「将来世代のためのハード整備」として位置付けられており、また、松本城を中心としたまちづくり並びに松本城三の丸地区整備基本方針に対し先導的な役割を担うなど、期待されているところが大きい。

そうした中、本件について松本市は、価格競争のみによる施工者決定方式ではなく、施工者が有する技術等もあわせて評価する、技術等提案型の総合評価落札方式の導入を決定した。松本市として初めての取り組みであり、その姿勢を高く評価したい。

本件の審査には、建築を専門とする委員6名で構成した審査委員会があたり、公平かつ公正な審査・評価を責務とし職務に従事した。

今回の総合評価落札方式では、博物館施工実績を有する建設業者（代表構成員）と、市内に本店を有する建設業者2者（その他構成員）、合計3者により構成される特定建設共同企業体による応募を受け付けた。

後述のとおり、参加表明書を提出した応募者は1者であった。各施工者が有する様々な技術を比較検討し、より良いものを選択することがこの方式の魅力だとすれば、本件は甚だ不満足な結果であると言わざるを得ない。今後松本市においては、本方式の特性を再度確認し、本件の経験を振り返り改善しつつ、本方式を定着させていくよう強く期待する。

今回審査した戸田・ハシバ・松本土建特定建設共同企業体の提案は、全体的にかなりの検討がされているように感じられた。総評として審査当日に松本市に対して報告した内容は以下のとおりである。なお、技術提案の評価点は、36点満点中24.67点である。

松本市として初めて技術等提案型の総合評価落札方式を採用したことは非常に意義のあることであり、趣旨を高く評価する。

実際の提案においては、敷地条件を考慮したもので、かつ自社が有する施工経験を踏まえた提案がなされており信頼感がある。また、代表構成員の配置予定技術者のコミュニケーションや各種調整等の能力にも期待できる。

今回の現場自体が博物館としての認知・活動の場であることを市民・観光客に対して発信していけるよう今後の施工に期待する。

以下、各項目について当日のヒアリングの内容も含め若干触れておきたい。施工計画においては、中心市街地にあること、かつ、敷地に余裕がない事を考慮した提案がされていた。ヒアリングにおいても、各工程において設定する節目を守りつつ、工程調整をしつつ進めていく旨の回答があった。また、枯らし期間の短縮に係る技術についても、施工経験を踏まえた提案がされており、積極的に評価できるものとした。

安全・環境対策の中では特に、松本市の観光特性を踏まえ、誘導員のAI翻訳機の携帯について、非常に高く評価した。一方で、周辺環境対策については、今後も検討していく旨の回答であり、課題であると思われる。

品質管理については、特にコンクリートの打設やモックアップの作成等に関しヒアリングを行った。提案者からは施工の肝となる部分として、関連する部門との打合せ等を重ねて進めていく旨の回答があり、本件のポイントを的確に踏まえているものと思われた。

社会貢献のヒアリングにおいては、施工現場そのものを松本市が進める「まるごと博物館構想」の中で捉えることで、博物館の企画展示の一つとしてみる事ができることから、どのような対応ができるか質問した。提案者の回答では、委員が挙げた例示を引きつつ、仮囲いへの児童・生徒の作品の掲示等の対応が可能であること、提案書に記載された見学会の実施などの回答が得られたのみで、やや社会教育機関である博物館の建設という面での本件に対する理解・発想力が不足しているように感じられた。

配置予定技術者の能力についてだが、ヒアリング審査の中で、本件の課題を的確に把握していること、コミュニケーション能力や調整能力がうかがえたこと、何より本件に対する熱意が感じられ、非常に期待ができると判断した。

特定建設共同企業体においては、安全な工事現場の実現は当然としつつ、本件を博物館という意識の中で市民・観光客への社会発信の一つとして捉えそのための具体策を検討していくこと、周辺環境対策等の適切な対応を求めるとともに、事業主体である松本市と連携を図り、「学都まつもと」を象徴する松本市民のための博物館に相応しいものをつくっていただくよう期待する。

今後、本件の契約が締結され、令和5年度の開館に向けて事業が進んでいくことになるが、松本市の将来の貴重な財産になる「松本市基幹博物館」の建設事業が、成功裏に無事完了されることを心より祈念申しあげる。

結びに、本委員会の運営に多大なるご協力とご尽力をいただいた関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申しあげ講評とする。